



貴重な経験を通じ、 たくましく成長!

31回目を迎えた青少年海外派遣事業は、7月29日から15日間の日程で行われ、5人の中学生がニュージーランド クライストチャーチ市へ派遣されました。ホームステイをしながら学校に通い、現地の学生たちとの交流を通じて、外国の文化や言語を学び、大きく成長しました。

NEW ZEALAND



クライストチャーチ市

問合先 協働人権課広聴・協働担当(1階④番窓口) ☎ 939・1331



派遣生の声

古田 桜都さん

(藤井寺中学校3年)

私はこの二週間での先の人生にとって大切なものを得た気がします。ホストファミリーの底のない愛情と日々の新しい発見や経験がいつのまにか、私の不安を取り除き、人生で一番充実した生活を送っていました。英語を全身で浴び、自分が英語を話すという体験は現地でしかできません。この貴重でかけがえのない時間、ニュージーランドの匂いや景色、ホストファミリーの声を一生忘れることはないでしょう。



中山 桃杏さん

(大阪教育大学附属

天王寺中学校2年)

「海外は怖くて差別がある」という私の偏見は、今回の滞在で一变しました。ホストファミリーやバディはとても親切で明るく、間違いを恐れず英語で挑戦できる環境がありました。自分の英語力不足を痛感した一方、完璧さに囚われる必要はないと気づきました。今回の経験は、私に一步踏み出す勇気の大切さを教えてくれました。「また絶対に留学する」という次なる目標もできました。



榎本 晃己さん

(藤井寺中学校3年)

食べものがとても美味しかったです。ホストマザーが作ってくれた料理は特に美味しかったです。野菜はみずみずしく、リンゴはとても甘かったです。ラム肉はあっさりしているけれど、旨味がたくさん詰まっていました。ポテチやチョコレートも美味しかったです。現地の人は英語が苦手な僕に優しく接してくれました。他の国にも行ってみたいと思える貴重な経験をさせてもらいました。



西矢 一希さん

(第三中学校3年)

「英語の能力を上げるぞ!」と意気込んで出発しましたが、英会話は正しくなくてもまずは伝えることが最も大事であるということに気づけました。他にも、実際に現地の学生や、ホストファミリーと話してみると、予想しなかった文化、考え方の違いに驚かされました。感謝の気持ちを伝えるときに言葉よりも「笑顔」を見せる文化に素晴らしく感銘を受けたので、自分の周りの人に広めていきたいです。



秋山 陽菜さん

(大阪教育大学附属

天王寺中学校3年)

現地の学校に、顔見知りだが話せていない子がおり、体育で同じチームになったり、授業で隣になったりしても、自分から話しかけられずにいました。しかし最終日、授業で隣の子と意見を交換する機会があり、話してみると意気投合しました。この経験から、人と関わるには自分から話しかけることが大切だと学びました。これからも積極的に人と関わり、多くのことを学びながら自分の視野を広げていきたいです。

